

令和3年度ないえ福祉会 事業報告

令和3年度における法人の事業・予算執行については、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受ける一年でしたが、計画的に実施することができました。

ハード面の事業では計画の通り、自動火災報知設備、受水槽の更新のほか、すまっしゅ男性用更衣室、あじさいの新築工事等も無事に完了しています。

新型コロナウイルス感染症の関係では、地域の感染者数の増加に伴い、昨年と同じく外出や行事の自粛、通所事業の一時休止など大きな影響を受けました。そのような中、感染対策として定期的な内部研修の実施や感染対策委員会の開催のほか、昨年6月から始まったワクチン接種についても希望する利用者、職員への3回目の接種を3月までに終わることができています。また、1月には空知管内の施設でクラスターが発生し、介護職員等派遣事業の派遣依頼を受け1名の職員を派遣しています。厳しい状況ではありましたが、3年度についても一人の感染者も出すことなく一年を終えています。

施設入所事業では、定員40名に対して利用者40名の定員は満たしていましたが、男性利用者1名が1月に療養型の病院に転院となり退所され、もう1名が長期入院中となっています。また、昨年11月には施設で誤嚥事故が発生し、その後、容体は安定していますが女性利用者1名が現在も長期入院中となっています。この事故を踏まえて職員全員応急手当WEB講習を受け、誤嚥・摂食に関する勉強会や誤嚥事故を想定した訓練などを行い再発防止に努めています。利用者の高齢化が進み介護や医療的ケアの必要な方も増えてきているので、今後も研修等に参加し、職員の介護技術や支援技術の向上に努めていきたいと思えます。

設備面では、自動火災報知設備や受水槽の更新のほか、1月には配管の穴から重油地下タンクへの水の流入が発生し、緊急的に重油の配管工事を行いました。設備の劣化等が多くみられるため計画的に更新できるよう準備をしていきたいと思えます。

感染症予防対策としては、ガウンテクニックやゾーニングの仕方など派遣職員からの最新の情報をもとに内部研修を行ってきました。昨年度も感染症の流行状況により帰省や外出等自粛した時期もありましたが、高齢化が進むなか感染症のほか、自然災害等にも備えながら利用者が安心して生活できるよう環境整備等も進めていきたいと思えます。

生活介護事業では、40名の定員に対して46名の利用者で活動を行ってきました。昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症予防のため活動の制限や行事の縮小・中止を余儀なくされた一年でした。北海道の緊急事態宣言やまん延防止期間中は、通所を休止し、一時的に分散通所で個別対応を行った時期もあり、ワクチン接種を終えても対策を継続しながらの一年となりました。具体的な活動としては、健康維持のための散歩や体操を個別または小人数で距離を取るなどの対策を講じながら午前、午後に分けて行い、その他ではちぎり絵などの創作活動も行いました。また、奈井江小学校とのジャガイモプロジェクトは、感染状況から交流会等を行うことができませんでしたが、収穫したイモを寄贈するなど形を変えながら継続し取り組みました。

行事については、交流ホーム前でのジンギスカンやテイクアウトでの食事、クリスマス会や餅つき行事など感染対策をとりながら、少しでも利用者が楽しんで頂けるように工夫し取り組みました。令和4年度も感染状況を踏まえながら利用者が楽しめるよう工夫し、行事を計画していきたいと思えます。

就労継続支援支援B型事業では、令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染予防対策として一時的な通所の休止や、密を避けるための分散通所を実施しました。利用者にとっては活動時間の制限で工賃の減少となりましたが、協力していただいたことで令和3年度も感染者を出すことなく無事活動を終えることができました。

椎茸作業では、感染の状況を見ながら地道に販路拡大や手売り販売を行い、売り上げを伸ばすべく努力してきました。今年度は大きな工事等の支出が無かったこともあり、24万円の黒字となりました。ハード面では、男性更衣室を設置し利用者が快適に休憩できる場所の確保ができました。

リサイクル・洗濯作業の収入は昨年同様、安定しています。感染対策をしながら住電でのパソコン入力作業、農家へ出向いてハウスのビニール剥がしのアルバイトや農協きゅうり選果場での作業も継続して行いました。利用者みなさんに年度末賞与を支給しています。

就労移行支援事業の今年度の就職者は6名でした。皆さんそれぞれ現場で活躍しています。みみずくは、緊急事態宣言による一時的な休業や、まん延防止等重点措置で店内飲食を中止しテイクアウトのみの営業としたこと等で、収入は200万円ほど落ち込みました。しかしその間、職員ランチ・行事のお弁当注文や施設内での“出張喫茶“などを行い、工夫をして乗り切りました。年度末には清掃業者を入れ、店内環境も整えました。

就労定着支援事業では、職場やご家庭と連携して支援を継続しており、今年も離職者は出ていません。

共同生活援助事業では、4月に高等養護学校卒業生（男性）1名、11月に定員増となった新しいあじさいに女性1名が入居されて満員で賑やかな一年を送りました。新型コロナウイルス感染症との睨み合いが続き自由に活動できない毎日だったという切ない締めくくりですが、「今だからこそ」の活動を楽しみながらも感染者を出すことなく終えられたことには、皆さんの努力があつてこそと感謝しています。

日中活動サービスが分散通所となると日中の支援（主に昼食の提供や介助）が必要になり、行動を制限するしかない状況には買い物代行など仕事量がぐんと増えます。令和2年度同様そのような忙しい日々がありましたが、入居者も支援者もさほど混乱なく対応している姿がありました。健康が一番を合言葉にもう少しこんな時代に付き合っていくしかないと思つて皆で慰め合う毎日でした。

あじさい新築工事は、清水基金から助成をいただき11月に工事完了、入居を心待ちにしていた皆さんの新しい生活が始まりました。年齢に見合った活動ができることを意識した新あじさいは、ジェネレーションギャップに苦労することなく、今時の会話が飛び交い賑やかです。「できることは自分で、できないことはできるように」を心掛けて関わり、皆さんが役割を果たし意欲が保たれるように、一緒にたくさんの成功や失敗と出会いたいと思えます。

居宅介護事業は、4月新たにヘルパーを採用し、コロナ禍に必要とされるサービスにも感染対策を徹底してできる限り対応しました。利用者さんの新型コロナウイルス感染症への理解がなかなか難しい中で、諦めず予防を働きかけ、一緒に勉強したり、各々工夫をしながらサービスに出ていくヘルパーの姿には心強さを感じ、必要とされるサービスであることを再確認する場面に度々遭遇しながら一丸となって頑張ってきました。今年度は黒字決算で終わられたことに、一同胸を熱くしています。

高齢化や重度化に、長期入院や施設利用と生活の場が変わる利用者さんが多く、特に定期的なサービス利用が必要である家事援助や身体介護利用者が離れていくことには度々不安を感じました。常に一定のサービス需要がある事業ではないので、先を見通しながら、無理なく新規利用希望者の調査や新たなニーズの発見に力を注ぎ、小さな波に留められるよう努めて参りたいと思います。

共同生活援助事業とは、令和3年度も連携を強化しました。コロナウイルスの影響で日中活動サービスが利用できない時間などに、行動自粛中でストレスいっぱいの入居者と楽しい時間を共有し、心も体もリフレッシュすることにつながられたのではないかと感じています。

また、市町村事業である移動支援は単価設定に規則がなく、市町村によって差が生じているため、長年単価を見直していない市町村を訪ねて単価の見直しをお願いしました。複数の市町村で前向きに検討していただくことができ、対象の5市町村の内4市町では令和4年4月から、残る1市は令和5年度から単価を改定すると回答をいただいています。

短期入所事業については、一時、通常通り再開した時期もありましたが、入所施設との併設型のため対策が難しく、今年度も受け入れが少ない状況でした。緊急的な受け入れとして在宅の利用者が、目の手術を受けた後の対応が必要となり受け入れを行いました。今後も緊急時などは、利用者本人や保護者と相談させて頂きながら受け入れを行っていきたいと思います。